

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎『石叫』◆

「小辻節三」②

外国人の滞在許可を発行する窓口は警察署である。小辻はユダヤ難民の窮状を訴え、神戸警察幹部は小辻の要望を受け入れた。だが戦時中、小辻はユダヤ人を助けたというので憲兵隊から呼び出された。激しい拷問を加えられたこともあり、家族にすら危害が及ぶ懸念があったため、終戦間近の一九四五年六月、満州に向かった。二ヶ月後、ソ連は日ソ不可侵条約を破って侵攻。多くの日本人がシベリアに抑留されたが、小辻は連行を免れた。ユダヤ人の友人が彼ら一家を守り抜いたからである。彼は今度、ユダヤ人から逆に助けられたのである。

一九七三年十月三十一日、74才の小辻は家族に見守られて息を引き取った。「エルサレムで眠りたい」という遺言を遺して。しかし、当時イスラエルは第4次中東戦争の真っ直中。イスラエルとの連絡もままならない中、小辻のエルサレム埋葬に尽力してくれた人物がバルハフティク宗教大臣だった。彼は小辻に助けられた難民の一人であったのだ。彼は小辻の遺体を空港で出迎え、エルサレムの墓地に埋葬し、彼が弔辞を述べた。「小辻はいつも私たちに寄り添い、助けてくれて、出国するまで見守ってくれたのです。尊敬の念を持って、彼が愛したこの国に彼を迎え、聖なる場所に葬るため力添えをしました」。ユダヤ人の魂を持つに至った日本人・小辻節三は今、エルサレムの墓地に眠っている。

ユダヤ人が、リトアニアの日本領事館に押しかけ、杉原千畝から日本通過のビザの発給を受けたまでは良かったが、それからが大変であったとはつゆぞ知らなかった。小辻のおかげで多くのユダヤ人が助かったわけだ。だが一方、彼はユダヤ人によってシベリア抑留から免れたのだった。それに対する感謝はさぞかし大きかったことであろう。詩篇一二二篇には、数度「エルサレムのために平安を祈れ」とある。日本のキリスト兄弟団などはこの詩篇のゆえに、イスラエルのために教団をあげて日々祈ってきたのだった。小辻がユダヤ人のために心血を注いだように、主イエスは私たちのために、文字通り十字架に命を注いで下さった。それによって私たちは死から免れ、天のみ国に帰ることができ、その国民となる道が拓かれた訳である、それに対する主への感謝は尽きることがない。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。